SFS通信

平成24年9月27日発行（2012）
日本ボーイスカウト新潟連盟
スカウトフェローシップ委員会
編集長　杉山　剛
〒959－2658胎内市西条602－11
TEL & FAX 0254－43－4879
事務局　〒951-8052　新潟市中央区下大川前通4の町
TEL 025-229-5454 FAX 025-229-5446

第7回SFS全体集会　（参加募集）

前号でお知らせしたとおりに準備できました。詳細は下記のとおりです。ご参加をお待ちしています。

1・ 開催期日　平成24年10月25日（木）　15時集合
～　26日（金）　15時解散　（予定）

2・ 会場　社会保険協会　健康保険保養所　松風荘
新潟県村上市　瀬波温泉　2丁目4－29
電話　0254－53－3086
FAX　0254－53－3351

3・ 内容　25日　15:30～　SFS委員会総会（約1時間）　温泉が待っています。
ミニ講演会　村上の歴史　佐藤英行氏（新発田郷土史研究会）
夜：談話会（よもやま話で盛り上がりましょう。）
26日　早朝の海岸・松林散歩　朝食
9:00出発～笹川流（名勝天然記念物）～酒屋見学（大洋酒造）
～豪華おしゃぎり（屋台山車）～鮭文化（イオボヤ会館）～昼食
～堆朱（伝統漆工芸）

（村上は、歴史ある城下町です。見どころは数多くありますが、その一部を見ていただきます）

4・ 参加費　10，000円　（一泊二食、懇親会、）（当日いただきます。）
26日の見学代・昼食は各自払いとします。

5・ 服装　チーフのみご準備ください。

6・ 会場へのアクセス　26日の見学に車が必要です。乗り合わせてお出で下さい。
駐車場・・・松風荘の駐車場に駐車可能です。

7・ 参加申込　締切　**10月10日（金）**

申込先	下越地区	杉山　剛	0254－43－4879
	新潟地区	杉山　晃	025－285－0580
	中越地区	星　栄一	0258－33－9563
	上越地区	松矢　光一	025－524－6506

＜ビーバー・カブラリー＞（中越地区担当）

9月9日弥彦公園にて　21団　CS218人　BVS97人　計315人の参加。テーマは　”最高神　降臨”。

各団それぞれの武器を手に雄たけびをあげた後、9ヶ所のゲームコーナーを楽しく回りました。

気温32度、残暑厳しい中弥彦公園の素晴らしい緑に救われ無事に行事を終えることができました。

SFS委員会は今回もPR活動を行うべく、9人の委員が参加しました。

今までと異なり、SFSのブースがゲームコーナーに設定され、全てのスカウトが私達のコーナーを訪れました。鈴木正委員（長岡3）がジャンケンゲームを全スカウトと行うという頑張りを見せ、汗をぬぐいながら「いやー、元気をもらった。」と笑顔を見せていました。

アイテム大賞受賞団:【BVS】新潟15　長岡10　【CS】新発田1　新潟15　黒崎1　豊栄2　加茂1　西蒲7　長岡1　長岡10　上越3　‥‥各団指導者の熱意が伝わってきました。

＜16NJ情報＞（9月5日委員会情報）

＊参加隊2隊編成となりました。参加隊80人（指導者8スカウト72）に対し、スカウト数が65人（内女子9人）で7人不足です。最終確定はH24年1月です。追加申し込み可能です。

＊大会運営スタッフ（IST）には16人要請されていますが、今のところ10人。SFS委員会の皆さん‥‥出番ですよ。

＊派遣隊の交通手段は下記が有力です。
（往路）新潟⇒空路⇒福岡　（復路）山口⇒バス⇒大阪⇒新幹線⇒新潟

＊復路に、広島原爆記念公園で数時間勉強の機会を得られるよう計画中です。

＊H25年の登録時、参加スカウトの名前・読み方・住所の再確認をお願いします

11NAに参加して

新潟9団　VS隊副長　**大沼　元明**

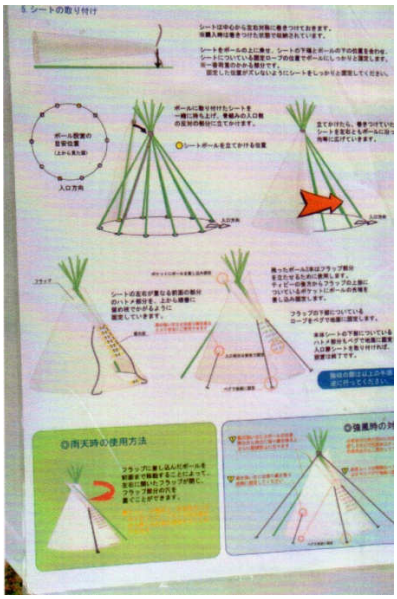
第11回日本アグーナリー（国際障がいスカウトキャンプ大会）
平成24年8月2日（木）～6日（月）
滋賀県　希望が丘文化広場
テーマ：　We can！　　あなたといれば・・・

11NA参加報告ということで参加した感想を・・・と思っていましたが、BS活動にかける思いや、必要と思われる協力要請をと考えたら、混乱してしまい、言葉が見つかりませんでした。

野営管理係に配属され、経験豊富な方に囲まれ、とてもよい経験になりました。私の仕事は、各参加隊を回り、キャンプ地の注意する場所や、参加隊の中で気をつけなければいけないスカウトの情報交換を専門の方と一緒に回ったり、野営地の警備を24時間体制（1時間ごとのパトロール）で行うことでした。

↑野営管理係のメンバー

また、インディアンテントを立てたこともよい経験になりました。毎朝の鼓笛隊のパレードも皆を笑顔にしてくれました。



↑インディアンテントの張り方

それから、なんとあのB-P卿のお孫さんとも会いました。（記念写真を撮ったのですが、残念なことにピンボケです。・・・.が、あえてご紹介します。）

↑B-Pのお孫さんと

11NAに参加してあらためて思ったことは、障がいのあるスカウトへの接し方です。

車椅子に乗っているスカウトなら、急に押されるより、声掛けしてから車椅子に触れる。本人の感覚で動いているので、少しでも本人以外の力が加わると敏感に反応してしまいます。

精神の障がいを持っているスカウト相手なら、一方的に指導せず、スカウトの今思っていることを聞く・・・穏やかに。

知的障がい・発達障がいでは色々とガイドブックには書いていますが、あれは一部です。似ている子はたくさんいますが、個々は全く違うのです。

いずれにしても、スカウトご両親との連携が大切なことは言うまでもありません。

”近江の夕べ”に法被や甚平を着て参加

11NAから無事帰ってくることができました。ご支援をいただきありがとうございました。

アグーナリーに参加してよい経験ができたと思います。今後のBS活動に活かし、これからもがんばって行きます。

また、次のアグーナリーにも参加したいと思いました。しかし、県から一人は淋しいですね。次回は、県内参加者が増えることを願います。

（写真をたくさん撮ってきました。県連HPに掲載出来るかも知れません。アグーナリーの様子をご覧ください）

発団５０周年記念式典を終えて

加茂第１団副団委員長
金沢理久夫

１　記念式典とウォークラリー

前年から準備してきた、当団の発団５０周年記念式典を去る７月22日（日）午前に挙行いたしました。日頃お付き合いをいただいている新潟地区、中越地区の友団の皆様、連盟の井上理事長様をはじめ、地元の来賓各位から祝福と激励をいただきました。午後は、近くの小学校に移動し、参加スカウトも一般児童と一緒に西加茂地区を巡るウォークラリーを楽しみました。７月の下旬という天候の不安定な時期でしたが、曇天のまあまあの日和に恵まれて、楽しい一日となりました。

三浦団委員長から団貢献者への感謝状贈呈

今年は、ガールスカウトの２０周年にも当たるため、ボーイ５０周年ガール２０周年の共催記念式典としました。ガールは、周年事業を一度もやっていなかったので、皆さん大変喜んでくれました。また、ガールの参加で、プログラムも多彩になり、ボーイにとっても意義深いものでした。

２　式典でスカウトらしさを工夫したこと

“not in, but out”を実践すべく、会場を野外にしました。どこかの体育館でやれば、天候の心配もなく、放送施設、ステージなどの準備も心配ないのですが、やはりスカウトらしく野外でやろうということで、文化会館前の公園で実施しました。そのため、当日の天候によっては、急遽逃げ込む所の準備、かんかん照りの日の対策、全員の椅子の配置や撤収、音響設備の借用や設置など、屋外ならではの手数を掛けました。

第２は、式典の演出です。スカウトらしく、国旗掲揚か国旗入場をやりたいということで、国旗ポールの設置が出来ない場所でしたので国旗入場を演出しました。また、スカウトや関係者の表彰に時間をかけました。かんかん照りの中で、一分でも式典時間を短くしたかったのですが、折角の晴れの式典ですので、スカウトや関係者がステージに立つ時間を多く取りました。そのため、ご挨拶はごく切り詰めて、市長、連盟理事長、ガール連盟理事長の３人のみとして、連盟顧問の菊田まき子衆議院議員も紹介のみにさせていただきました。

優秀スカウト表彰を受けるベンチャーたち

3　当団運営の特色

加茂第１団は、昭和３７年に加茂ロータリークラブがスポンサークラブとなって発団し、昭和４０年からは、加茂ライオンズクラブ、加茂青年会議所も育成会員となって運営しております。従って、団委員の多くは、この３団体と保護者が当たっています。団委員長や育成会長は歴代、ロータリークラブとライオンズクラブの方々が交代で務めています。指導者は団委員長にも育成会長にも就かないということを不文律にしています。

現団委員長は、ロータリークラブ会員ですが、元スカウトでもう８年も務めてくれています。この度の記念式典も、主な役割はその育成団体の皆さんが務めてくれました。式典部の部長はライオンズ、副はロータリー、部員は３団体、保護者、指導者から構成し、皆で合作した楽しい式典でした。

キムスゲーム、何が入っているかな

4　５０周年記念事業の概要

この度の記念事業は、総額８５万円で主要４つの事業を計画しました。１つは記念式典・ウォークラリーの開催、２つに記念キャンプの実施、３つは記念品（記念デザインのタオル）の製作、４に記念誌の発行です。

現在、１～３の事業は終了し、第４の記念誌部会が記念誌を編集している最中です。５０年の歩みをまとめるとともに、記念式典の様子、記念キャンプの様子なども掲載したいと鋭意取り組み中です。１０月中に刊行、関係の方々からご笑覧いただきたいものと思っています。

その他特別事業として、スカウトセンターの改修を計画しました。これはスカウト関係者だけの事業とし、スカウトＯＢ，保護者、指導者の皆様から200万円余の寄金をいただきました。屋根の吹き替え、トイレの改修、調理場の改修などを計画しています。センターは、スカウトたちの巣であり、指導者の拠り所です。今年度中に改修を終わり、また、賑やかなスカウトの声が聞こえることを楽しみにしています。

5　終わりに

多くの先輩方のご指導をいただいて、５０周年を迎えることができました。特に同じ道を歩んでこられたＳＦＳの各位には、長年のご指導、ご交誼に心から感謝申し上げます。

ゲームを終えて、講評と閉会式

話は変わりますが、大津市に起きた生徒のいじめ自殺など、子どもの世界に起きている異常さに心が痛みます。今こそ、“誓い・おきて”を重視するスカウト活動の出番ではないかと思うのですが、子どもの興味、親の信頼をどう得るか工夫したいものです。

リレー寄稿

趣味と達成感

中条第一団　団委員　**佐藤英行**

好きな歴史の勉強・調査研究に、やっと時間が取れるようになったのは６年前。先ず取組むべきは古文書解読の勉強であると、私は自主運営の「新発田古文書解読研修会」に入会した。

入会して驚いたのは、皆さんのレベルが非常に高く、この地域で歴史講座とか講演会があれば講師として要請される方が、何人も居るというような会であるという事であった。

当然ながら１年余の私の苦労は並大抵なものではなかった。しかし、そのお蔭があって意外に順調に解読力も付き、３年位経つと多少は読めるようになっていた。

解読の予習の時間も短くなり少し余裕が出てくると、歴史好きもいい加減なものではなくなってしまい、次から次と興味のあること、疑問に思っている事を調べ始めていた。

その内、「前九年の役・後三年の役」にとり憑かれてしまった私は、これを纏めてみたいと思うようになり、遂に取組みを始めたのである。

ところが、新たな資料も余り無くなり、終わる事にした時には、何と三年半位の日時を要してしまっていた。

初めの内はネットや、文献を見たり等という事で順調に進んだが、その内、源氏の系図は？、貴族武士の藤原氏・平家・源氏の力関係は？、頼朝の奥州追討の関係は？、安倍氏と安倍比羅夫との関係は？とか、新たに調べたい事柄が湧き出て来て、とんでもない時間が掛ってしまったのである。

それだけ私が歴史に対して知識が不足していたという事になるのだが、それならと今更本気になって歴史を勉強し直したとしても、一晩寝れば元の木阿弥となる様になってからではもう遅い。仕方がないから、諦めてしまう方が良さそうだと割切る事にした。

しかし一方では、新たな知識、事柄を得ては驚き、喜び、感動し、そして遠い昔に思いを馳せる日々は、非常に楽しい事であるのは確かなのである。

従って今、私はまた次の新しいテーマに取り組み始めている。それは「戊辰戦争時に賊軍として最後まで戦った庄内藩と、奥羽越列藩同盟を抜けて官軍側となった新発田藩の夫々の背景」に付いて調べるというものである。

調べは始ったばかりだが、既に私の持っていたイメージとは少し違う事柄も出始めている。結果が出るのが楽しみなのだが、何時まで経っても調べ物が尽きない中では、ある日突然偉大なる中断という可能性がある事を、今後ともしっかりと覚悟をしておかなければならないと思っている。

「老後はゆったりと楽しく穏やかに」と思っていた私であったが、趣味が歴史であるが故に、やりたい事や調べたい物に連日追い回されている様は決して「ゆったり」とは言えない。そして、楽しいながらも大いなる達成感を得る事は容易でないのも、残念ながら認めざるを得ないと思うようになっている。

最後になってしまったが、「前九年の役・後三年の役」の調査で解った面白い事がら二点を記してみたい。

１．康平5年(1062)年9月17日、厨川柵（くりやかわのさく　岩手県）で安倍貞任が死に、藤原経清らも斬られて、事実上前九年の役は終わる。しかし、貞任の弟宗任は安倍家再興のために相当の人数を率いてそこを脱出、出羽国南端の石山楯（鶴岡市水沢字石山）で追ってきた源義家と戦う。知略武略共に優れた宗任の抗戦は凄まじく、勝利が困難と見た義家は四国の我が領地を与えて宗任と和睦。宗任は奥州を遠く離れて行く事となった。この子孫が平家物語に出てくる松浦党であり、今の安倍晋三であるという。

２．安倍宗任が立て籠もった石山楯のすぐ前には、360度を見渡せる丸山と称する出城（曲輪・出丸）がある。この出城は、一族が滅んだ厨川柵の二の舞を避けて宗任が一夜にして築いた物で、これは欧州より400年、大阪城の真田丸より550年も前に、宗任が考え出した世界で始めての出城である。この出城の為に攻めあぐね、間もなく来る冬の焦りに義家は負けたのである。宗任の作戦は見事成功したのであった。

・・・次号は　新入会員の矢田俊司さん（中条１）にお願いします。